

令和5年度一般財団法人山梨県地場産業センター事業計画書

事業計画

基本方針

中期経営計画(令和5年度～令和9年度)の初年度となる本年は、特に特需が期待できるイベントもないが、収支に見合ったイベントを開催し、中期経営計画に則り来館者のニーズにあった売場づくりや体制の整備を推し進め、おもてなしの心構えを実践し業務運営を図っていきます。依然として新型コロナウイルスの影響は続いています。本年5月8日から新型コロナウイルスも5類になる予定であることから人流も活発となり、業況は回復に向かうと思料されます。

今後も新型コロナウイルスの影響や気候変動などの天災で、予断を許さない経営環境は続くものと思料しますが、販売商品の展示方法・商品の品揃えなど逐次見直しを行い、柔軟な発想と工夫で収支の確保を図っていきます。また、ECサイトやSNSを活用した新規分野の販路開拓や山梨県・甲府市のふるさと納税の返礼品提供にも積極的に注力し、収益の柱として取り組み、ウィズコロナ・アフターコロナに対処して健全な経営を維持する努力を継続していきます。

事業実施計画

1 商品力の強化

- 活気溢れる販売フロア(レイアウトの変更)の改革
- 新規取扱商品の発掘により、品揃えの充実を図る
 - ・新聞掲載商品や話題性のある商品の導入に向けた商談
 - ・未扱い商品、未扱い分野の開拓
 - ・未扱い催事、話題性のある店頭販売商品の開発
- 既存商品の品揃えの見直し
 - ・取引先とのコミュニケーションを高め、「売れ筋」の商品の導入を図る
 - ・他店調査(サービスエリア、道の駅など)は継続し、商品開発に努める
- 全国の地場産業センターとの連携を強化
- ふるさと納税返礼品の新商品の発掘に努める

2 販売力の強化

- 誘客活動の推進

新型コロナの感染状況を見極めながら下記の対応をしていく

 - ・観光エージェントとの契約及び囲い込みに取り組む
 - ・やまなし観光推進機構、甲府商工会議所、山梨県中小企業団体中央会などとの連携により、観光業者訪問や商談会に積極的に参加してPR活動に努める
 - ・県内観光施設を訪問し、パンフレットの配布依頼やPRを依頼する
 - ・イベントののぼり旗を新調し、誘客のPR活動を行う
 - ・ゲーグルマップを有効に活用し個人顧客の誘客を図る
 - ・宝石すくい・万華鏡づくり・ネックレスづくり等体験型イベントを増やして行く
 - ・アフターコロナを見据え、イベントの規模を順次拡充し集客に取り組んでいく
- 販売チャネルの拡充

- ・更なる EC サイトの充実を図る
- ・PayPay のクーポン(割引還元)やスタンプカードを有効活用して集客と販売強化を図る
- ・山梨県・甲府市の「ふるさと納税」返礼品の充実に取り組み、販売強化を図る
- ・SNSの有効活用で「かいてらす」の認知度の向上を図る
- ・ロコミ、無料通信アプリ、低料金販促ツールの開発・研究に取り組む

○販売員教育の実施

- ・外部オンラインセミナーや研修会への参加により、商品知識の向上を図る
- ・各種展示会やイベントを見学する事により、接客技術やプレゼンの勉強をさせる
- ・朝礼、昼礼を通じて、課題や目標の徹底、問題点の共通認識、意識改革などを図る

3 経営の健全化

○数値実績の把握と差異対策

- ・より詳細な月次損益の把握
- ・実績に応じた支出管理(マイナス収益時への対応)

○販売フロアの収益向上

- ・ジュエリー等の販売強化を図るため、小規模な割引セールを年間5回開催し、収益向上を目指す
- ・販売フロアを有効的に活用する中、フロアの賑わいや華やかさを演出し売上向上を目指す
- ・1Fフロアの利用者の新規開拓に取り組んでいく

○会議室の収益向上

- ・空室情報の発信や利用者の事前確認など、従来のサービスは継続していく
- ・老朽化した必要備品は順次更新などを行い、サービスの向上を図る
- ・事前予約に注力し、リピーター率の向上を図っていく
- ・大ホールの利用先を開拓し、利用率の向上を図っていく

○将来を見据えた運営方針の検討

- ・費用対効果を考慮した業務の見直し
 - 収支に見合ったイベントの開催を継続していく
 - 年間事業に対する広報を見直して、安価で効果的な媒体を検討する
 - 販売チャネルの多様化を図る
- ・センター運営に関する方向性の整理
- ・人材育成強化と能力向上を図る